

# 1. 京都大学の教育課程と教養教育

京都大学は、あらゆる学問分野の不断の発展を先導する先端的学術研究を進めるとともに、これを担い、また我が国のみならず国際社会において指導的役割を果たすことができる優れた人材の育成を任務としています。現代社会が直面する重要な課題が、より複合的で深刻な価値観の対立を含むものとなってきている現代にあつて、個々人が指導的な活躍をしていくためには、多様な専門分野間での共同が必要であり、異なる価値観や視点の共存を図ることが重要です。

学生諸君には、それぞれが志す分野の専門的知識や学問の方法を学ぶことは言うまでもありませんが、専門的知識・能力を十全に発揮していくためには、自らの専門性を全体の中に的確に位置づけ、異なる見方・考え方と対話し、多元的な視点で考察する能力ならびに歴史の脈絡の中でとらえる能力が要請されます。そして、健全な良識と深い人間的洞察力、そして高い責任感・倫理感をもって、自由で公正な民主社会の担い手となることが求められます。

本学の「基本理念」は、教育に関する項において、

1. 京都大学は、多様かつ調和のとれた教育体系のもと、対話を根幹として自学自習を促し、卓越した知の継承と創造的精神の涵養につとめる。
2. 京都大学は、教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に寄与する、優れた研究者と高度の専門能力をもつ人材を育成する。

と述べています。また、「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」として、以下のとおり定めています。

1. 豊かな知性と人間性を育む教養教育を実施し、新たな知の創造につながる専門教育を積み上げ、社会の各方面で指導的な役割を果たしうる人材を育成する。
2. 多様でかつ調和のとれた教養教育を実施し、高度な教養と豊かな人間性、強固な責任感と高い倫理性を得させる。
3. 高等学校教育からの連続性に留意した基礎教育を実施する。その上に専門的知識を修得させ、総合的判断力の基礎となる知力を確実に育成するとともに、最先端の研究の場での積極的な活動を通じて専門的知識を深化させる。
4. 地域社会、そして全地球的な環境において指導的な活躍ができるよう、その基礎となる国際的視野や異文化理解能力、そしてコミュニケーション能力を養わせる。
5. 社会の変化に際しても自主的、積極的に対応できる能力を獲得させるため、対話を根幹とした自学自習の姿勢を効果的に修得させる。

このような基本姿勢に基づいて、学生諸君は各学部において具体化された教育課程に沿って学修することになりますが、大学における学修は学生諸君がこれまでに学んできた初等中等教育の学習とは異なり、各自の志にもとづいて自ら設計して取り組むものです。大学が提供する教育課程や授業はこれに指針を与え、学生諸君の学びを支援するものにほかなりません。「自学自習」とはこのことを指しています。また、十全な知識・技能を修得し、広い視野、深い洞察力、豊かな人間性を育むことは、単に教室での受動的な学習や書籍のみから得られるものではなく、教員、先輩、同僚など様々な経験、立場の人々との交流、協同、相互批判を通して実現するものです。このために、あらゆる学術分野の指導的な専門家と、歴史的に築かれた知の蓄積を擁している本学の優れた条件を活用することができます。「対話を根幹として」とは、このことを指しています。

学生諸君には、教養・共通教育において、先人の学びの発想と展開の脈略、その知と技法を自律的、順次的、体系的に学ぶとともに、交流を通して構想豊かに考える力を培い、専門教育においては、学術の最前線に触れながら専門の学芸を深めることにより、これらの総合力をもって自らの志に果敢にチャレンジするという、本学伝統のスピリットをよりどころに、次代を先見・先取する社会のリーダー、さらにまた未踏の学術領域の開拓者としての活躍が期待されています。